

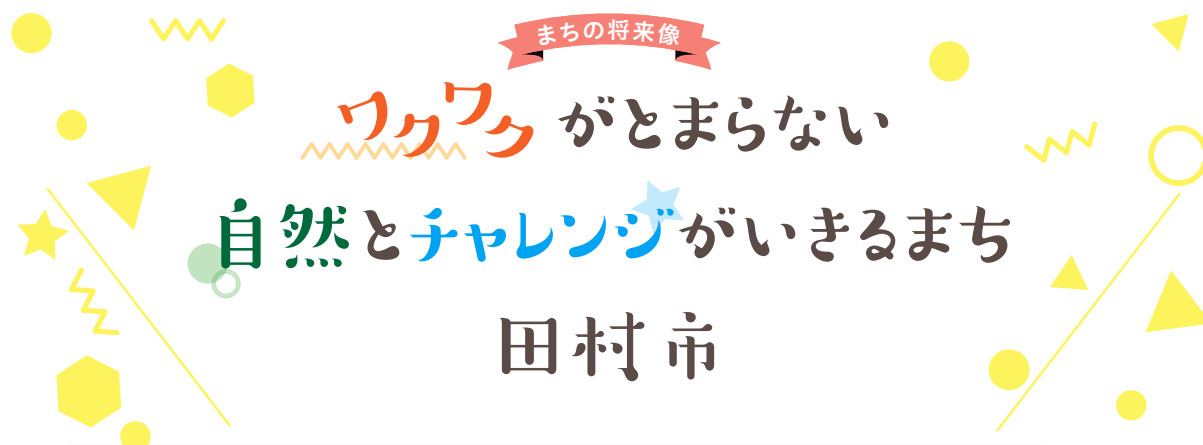
1. まちの将来像(私たちの目指すまちの姿)

市民はこれからの田村市について「住みやすいまち」や「安全・安心なまち」を期待しています(アンケートの結果はP107に記載)。

市民、団体、高校生・大学生(市外を含む)、市職員による「Tamura Futureワークショップ」からは【田村市らしさ】、【共感・共鳴】、【目指す未来像】のキーワードと目指すまちの姿へのアイデアを提案いただきました。

多くの市民の期待と市内外の視点を生かして、これから目指すまちの将来像を設定します。

新しい将来像のもと、市民の皆さまと一緒に“田村市らしいまちづくり”を進めてまいります。



ワクワクがとまらない

- ◆心躍らせることを表現する「ワクワク」という言葉は、小さな子どもをはじめとする、次世代を担う若年層にも届くメッセージです。
- ◆市民がずっと「ワクワク」し続けることは、一人一人の心を豊かにし、生活に嬉しさや楽しさを増やすだけでなく、「ワクワクできる田村市」が新たな魅力となり、市外からの人呼び込む交流や移住・定住が促進されます。

自然とチャレンジが いきるまち

- ◆「自然」と「人」という貴重な資源や魅力を「生かす」ことがまちづくりに重要です。
- ◆ポストコロナ等かつてない社会情勢を「発展のチャンス」と捉えて積極的な行動(チャレンジ)が不可欠です。あわせて「チャレンジできる」「チャレンジを応援する」ことが当たり前(自然)となる地域づくりを目指します。

2. 将来人口

国及び福島県全体の人口減少が進む中、国の推計によると、本市の人口は将来、3万人を下回ることが予想されています（国立社会保障・人口問題研究所（社人研） 平成30年（2018年）推計）。

持続的な発展を目指す本市は、こうした見通しを踏まえた上で、豊かな自然と歴史文化を生かし、産業振興、教育・医療・福祉、住環境、市民協働の各分野の取組みを着実に推進し、取組みの成果として定住化と雇用拡大を図り、人口減少に歯止めをかけることを目標としています。この目標を示す指標として、計画期間の最終年度の令和13年（2031年）人口を次のように定めます。

将来人口

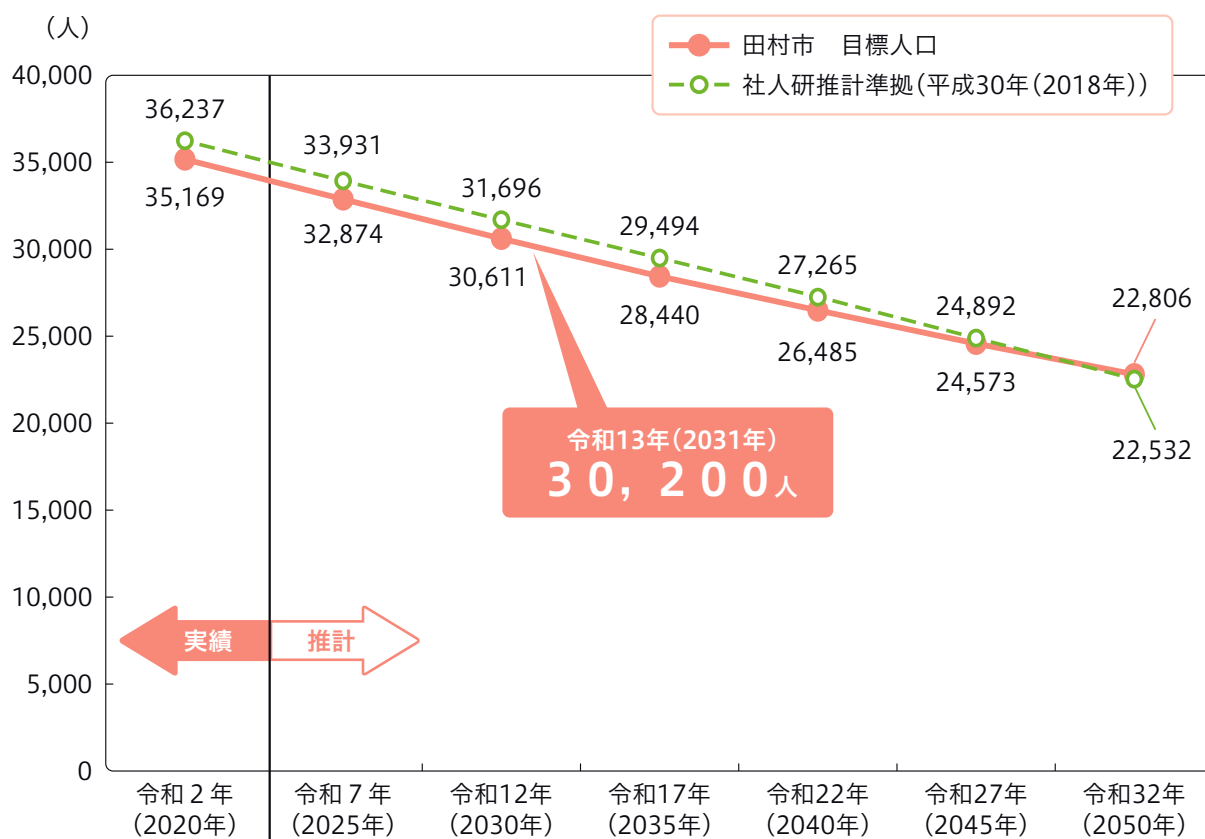
令和2年(2020年)

35,169人
(国勢調査)

令和13年(2031年)

30,200人

▶ 田村市人口推計、社人研人口推計



社人研推計準拠(平成30年(2018年))の令和2年(2020年)は推計値
資料：田村市企画調整課

3.土地利用方針・将来都市構造

(1)土地利用の基本理念

豊かな自然、暮らしやすさ、地域経済の活性化が調和する土地利用を目指し、次の基本理念のもとに総合的かつ計画的に進めます。

1

地域の個性と連携に 配慮した土地利用の推進

自然、文化、伝統等、それぞれに有する資源や特徴を生かしつつ、地域間の連携促進にも配慮した土地利用を図り、個性的な地域づくりと市全体の活力あるまちづくりを進めます。

2

保全と活用の調和した 土地利用の推進

森林や河川等の豊富な自然環境の保全と観光やレクリエーション等への活用等、その調和に努めるとともに日常生活や生産活動に配慮した市街地や農地の適正な土地利用を図ります。

3

個別計画と連携した 計画的な土地利用の推進

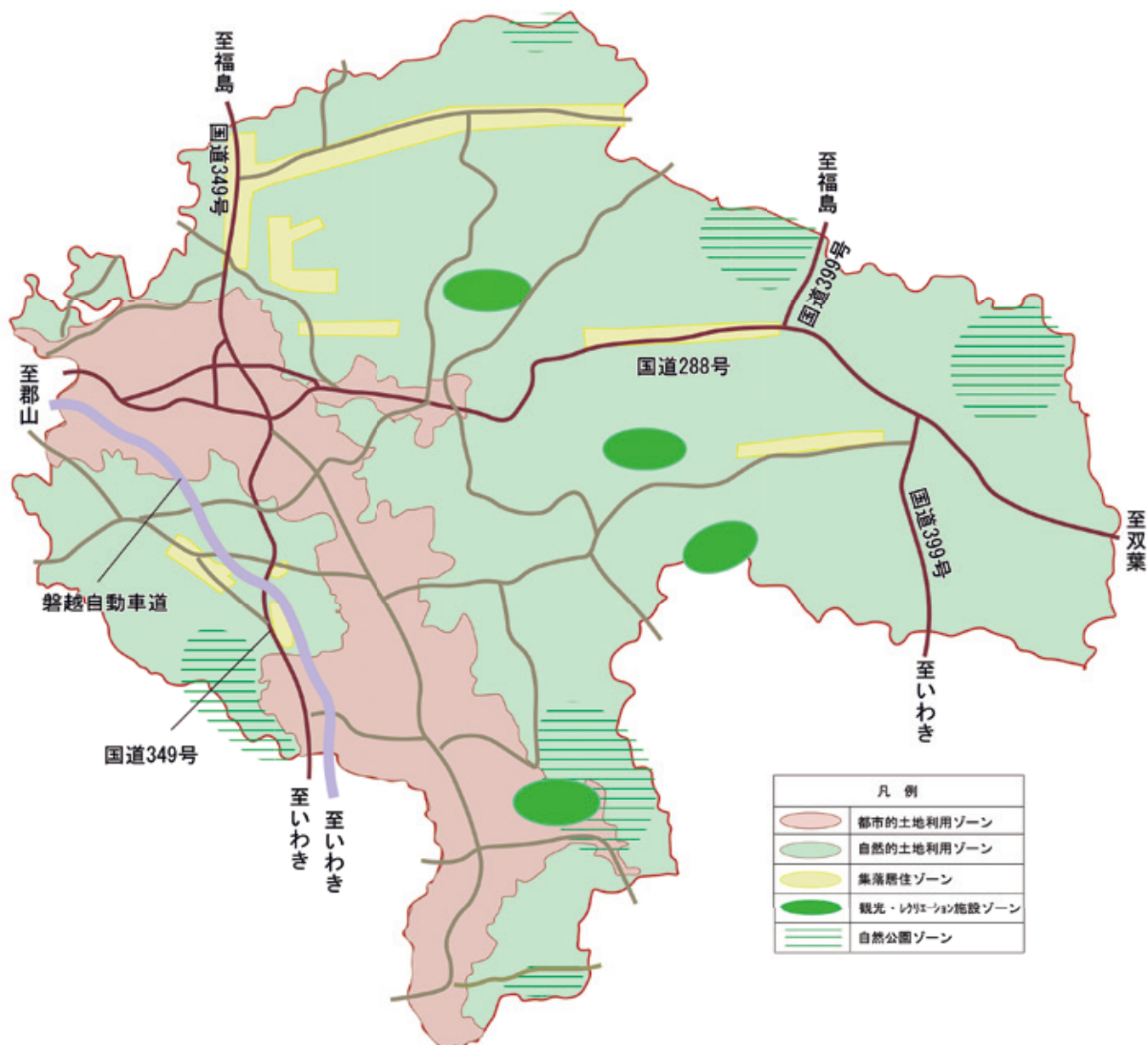
具体的な土地利用のあり方については、国土利用計画や都市計画マスタープラン等の個別計画に位置づけ、市全体の均衡ある計画的な土地利用を図ります。

(2)土地利用方針

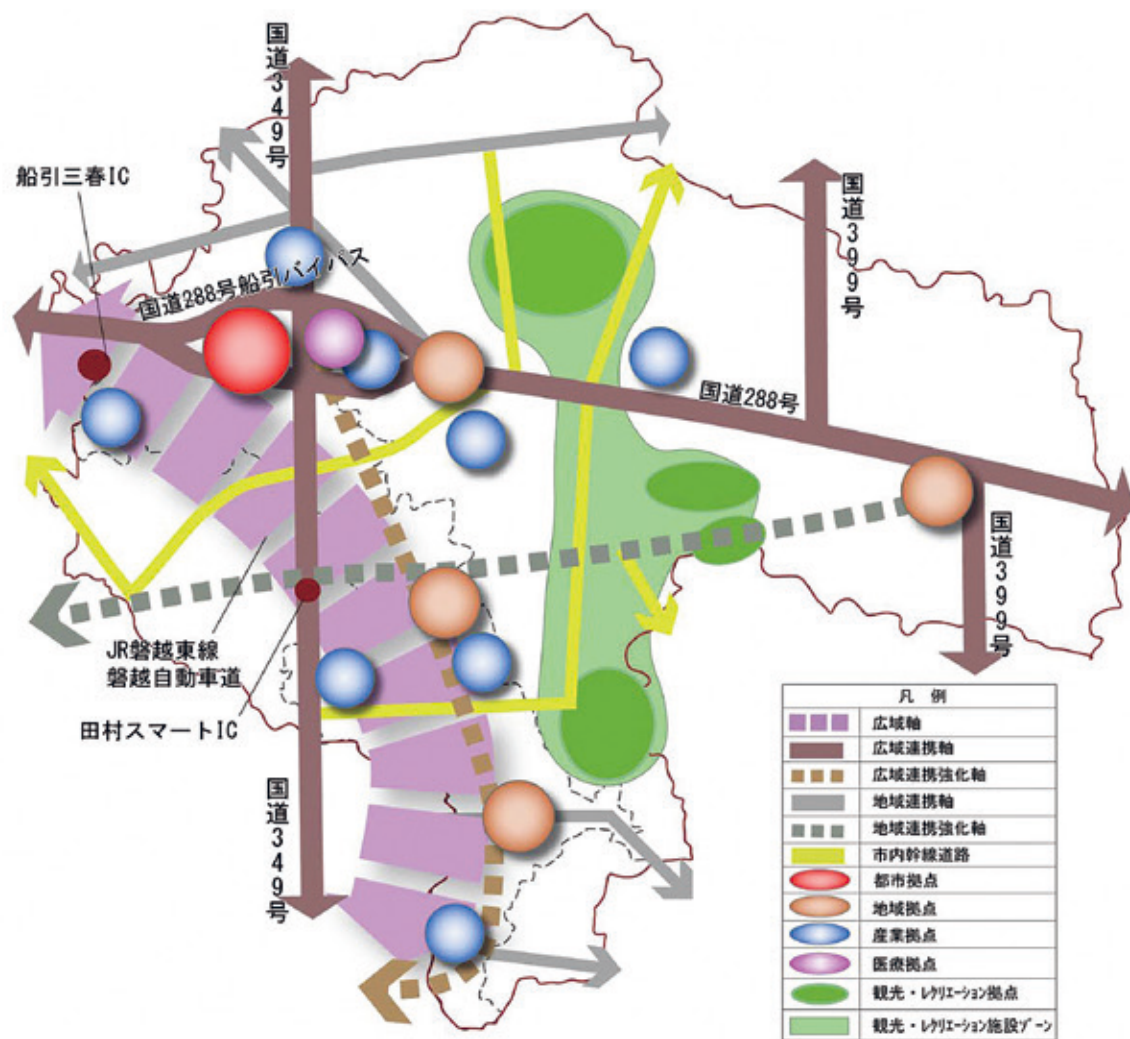
本市の土地利用は、ほぼ農地・森林で占められている「自然地(都市計画区域外)」、都市的土地利用(用途地域)と自然環境の保全と調和に配慮した土地利用(白地地域)からなる「都市計画区域」に大別されます。土地利用は「自然地」、「都市計画区域」をそれぞれ4つのゾーンに区分し、各ゾーンで計画的な土地利用を図ります。

「自然地」の土地利用方針	「都市計画区域」の土地利用方針
① 自然的土地利用ゾーン	① 中心市街地ゾーン
② 集落居住ゾーン	② 地域拠点ゾーン
③ 観光・レクリエーション施設ゾーン	③ 産業系土地利用ゾーン
④ 自然公園(阿武隈高原中部県立自然公園)ゾーン	④ 都市基幹公園

▶ 土地利用方針図(全体)



▶ 将来都市構造図



区分	名称	対象
都市軸	広域軸	JR磐越東線、磐越自動車道
	広域連携軸	国道 288 号及び船引バイパス、国道 349 号、国道 399 号
	広域連携強化軸	主要地方道船引大越小野線
	地域連携軸	主要地方道浪江三春線、主要地方道小野富岡線、一般県道本宮常葉線
	地域連携強化軸	主要地方道郡山大越線、一般県道富岡大越線、一般県道あぶくま洞都路線
都市拠点	都市拠点	船引地域の市街地
	地域拠点	滝根地域、大越地域、都路地域、常葉地域の中心部
	産業拠点	舟ヶ作工業団地、田村市産業団地、大越牧野工業団地、常葉工業団地、田村西部工業団地、沼ノ下工業団地、船引第 2 工業団地、(仮称) 田村市東部産業団地
	医療拠点	たむら市民病院、その周辺に集積する小規模医療施設、福祉施設
	観光・レクリエーション拠点	あぶくま洞周辺、ムシムシランド周辺、桧山高原、グリーンパーク都路
	観光・レクリエーション施設ゾーン	観光・レクリエーション拠点の機能的な連携(広域交流の促進とネットワーク形成)

4. 施策体系

将来像

ワクワクがとまらない自然とチャレンジがいきるまち 田村市



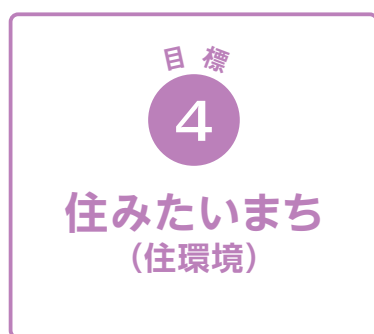
- 分野1 農林業
- 分野2 商工業
- 分野3 観光
- 分野4 働きやすい環境



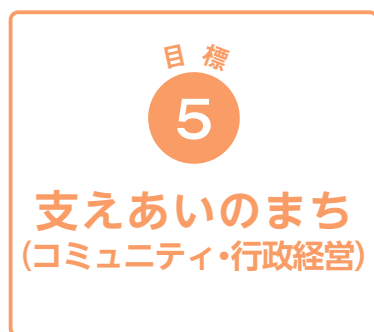
- 分野1 学校教育、青少年健全育成
- 分野2 生涯学習(芸術・文化、スポーツ、文化財)



- 分野1 健康づくり・医療
- 分野2 子育て支援・少子化対策
- 分野3 地域福祉(社会福祉、高齢者、障害者等)



- 分野1 住環境(都市整備、社会インフラ、住宅、公園・緑地・水辺、資源循環型社会)
- 分野2 安全な地域(防災、消防、防犯・交通安全、消費者)
- 分野3 関係人口の拡大、移住・定住化対策



- 分野1 コミュニティづくり
- 分野2 交流、シティプロモーション
- 分野3 行政経営